

2009年度(2010年3月期)  
第1四半期(4~6月)  
決算説明会



2009年7月31日  
大正製薬株式会社  
常務取締役 酒井 明人

# 2009年度第1四半期決算：概要



## 第1四半期：損益の概要

(億円)

	08年度 1Q	09年度 1Q	対前年同期増減	
売上高	619	636	+17	+3%
SMG*	386	386	▲1	▲0%
医薬事業	232	250	+18	+8%
営業利益	116	63	▲54	▲46%
経常利益	124	71	▲53	▲43%
四半期純利益	77	36	▲41	▲54%

注：数字は億円未満四捨五入

\* SMG：セルフメディケーション事業

# 2009年度第1四半期の事業概況



## ・ セルフメディケーション事業

- 新製品の発売と育成
- 販売制度改正(6月施行)への対応
- 新販売制度施行に伴う影響は想定内  
ドリンク剤はやや苦戦  
リアップ<sup>®</sup>X5を中心とした新製品の寄与は計画通り

## ・ 医薬事業

- 既存品の売上確保
- 新製品の育成
- 抗菌薬市場におけるシェアアップ  
大正富山医薬品の売上高は計画を上回った

# 2009年度1Q：売上高・利益の増減要因



<p>売上高 (+17億円)</p>	<p><b>セルフメディケーション事業 (横ばい)</b> OTC薬等 ▲4億円 リビタシリーズ 横ばい 海外ドリンク剤 ▲1億円 その他 +3億円</p>	<p><b>医薬事業(+18億円)</b> 大正富山医薬品 +28億円 ロイヤルティ収入 ▲10億円 中間製品等 ほぼ横ばい</p>
<p>営業利益 (▲54億円)</p>	<p>売上総利益*:6億円の減少 (売上総利益率* 前年同期68.0%→当期65.2%) 販管費:48億円の増加 内訳 研究開発費 +35億円 販促費 +6億円 広告宣伝費 +10億円 人件費 +1億円 その他 ▲4億円 (のれん償却額減少等)</p>	
<p>営業外損益:持分法投資損益は2億円改善 (前年同期▲12億円→当期▲10億円)</p>		

\*返品調整引当金繰入・戻入調整後

# 主要ブランドおよび製品の売上高



(億円)

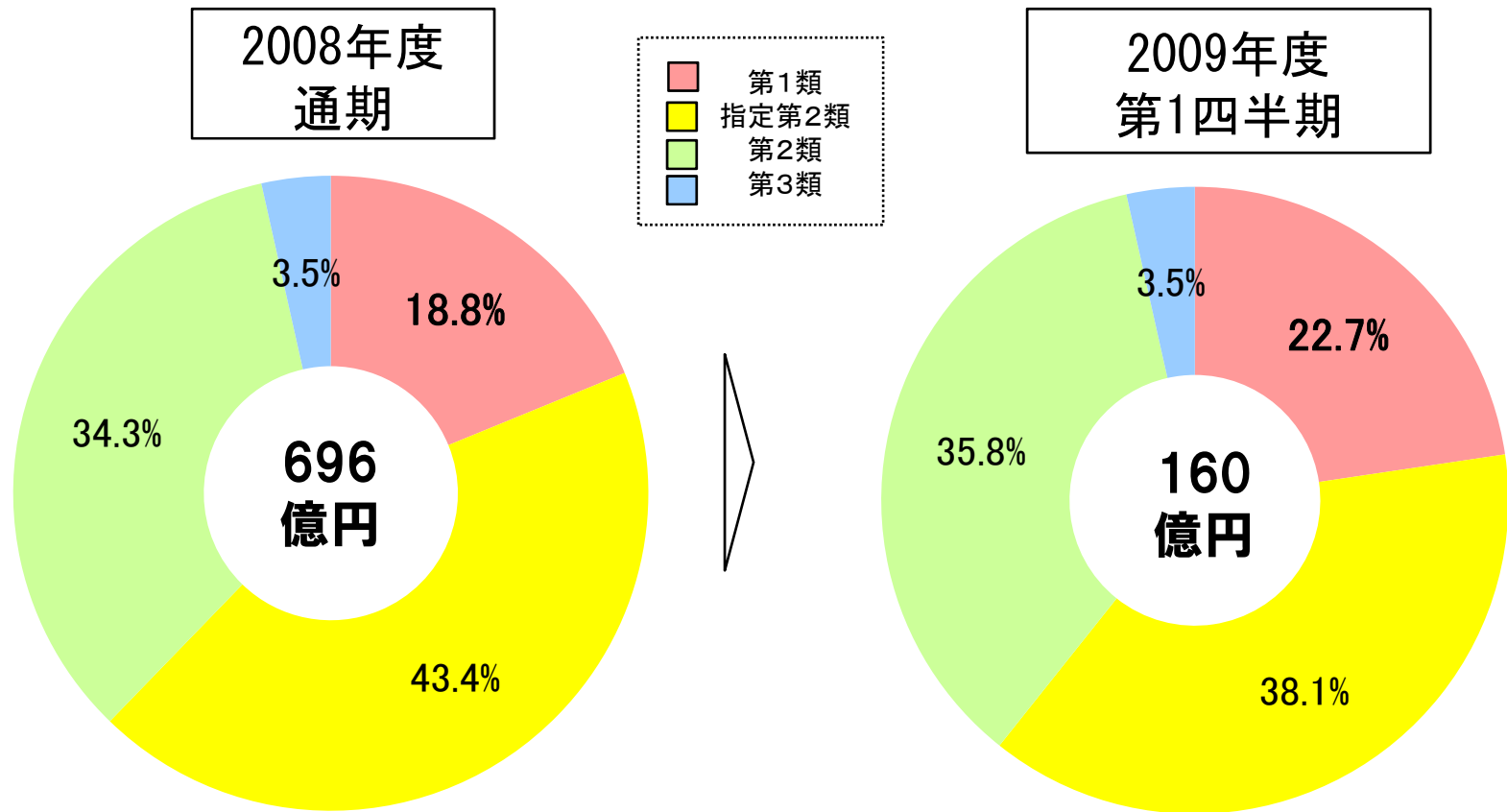
	1Q	対前年 増減額	2Q予想		通期予想	
			新予想	対従来 予想	新予想	対従来 予想
リポビタンシリーズ	185	▲12	411	▲4	729	0
パブロンシリーズ	47	+4	98	+4	263	+11
リアップシリーズ	33	+5	67	▲2	130	0
胃腸薬シリーズ	10	0	21	▲1	45	0
ナロンシリーズ	11	+1	24	+1	47	0
コーラックシリーズ	10	0	19	0	40	+1
リビタシリーズ	7	▲0	14	0	29	0
クラリス	54	▲2	98	0	235	▲3
パルクス	28	▲0	56	0	110	▲2
ゾシン	25	+22	40	+18	80	+26
ジェニナック	16	+15	25	+3	51	0

注: 数字は億円未満四捨五入



# 分類別売上構成比

- 当第1四半期は、リアップ<sup>®</sup>X5等の発売もあり、第1類医薬品の比率は上昇（2008年度通期ベースで18.8%→2009年度第1四半期は22.7%へ）



（当社のOTC医薬品売上高を100%とした場合の構成比）

# 2009年度第1四半期：市場動向



- ・ OTC医薬品市場：前年同期比 1%増
  - － 花粉症関連、新型インフルエンザ予防関連などが寄与
  - － 6月は販売制度改正の影響で単月でマイナス（第1類については企業間で差がでている）
- ・ 医療用医薬品市場：前年同期比 6%増
  - － 当社の主力市場である抗菌薬は市場全体で3%減（経口3%減、注射3%減）

Copyright 2009 IMSジャパン, JPM, 2009年4-6月  
無断転載禁止,

# 2009年度：業績予想



- 第2四半期累計については上方修正、通期予想は変更なし

(億円)

	2Q累計予	修正額	前期比	通期予	前期比
売上高	1,280	+20	+1%	2,570	+0%
SMG*	822	▲6	▲0%	1,625	+1%
医薬事業	458	+26	+5%	945	▲1%
営業利益	170	+10	▲13%	340	▲10%
経常利益	180	+10	▲13%	390	▲2%
当期純利益	100	+5	-	230	+161%
EPS(円)	34.9			80.2	
(参考)					
大正富山医薬品売上高	400	+25	+8%	820	0%

注：数字は億円未満四捨五入

\*SMG：セルフメディケーション事業



# 主要ブランドおよび製品の売上高



(億円)

	1Q	対前年 増減額	2Q予想		通期予想	
			新予想	対従来 予想	新予想	対従来 予想
リポビタンシリーズ	185	▲12	411	▲4	729	0
パブロンシリーズ	47	+4	98	+4	263	+11
リアップシリーズ	33	+5	67	▲2	130	0
胃腸薬シリーズ	10	0	21	▲1	45	0
ナロンシリーズ	11	+1	24	+1	47	0
コーラックシリーズ	10	0	19	0	40	+1
リビタシリーズ	7	0	14	0	29	0
クラリス	54	▲2	98	0	235	▲3
パルクス	28	▲0	56	0	110	▲2
ゾシン	25	+22	40	+18	80	+26
ジェニナック	16	+15	25	+3	51	0

注: 数字は億円未満四捨五入

# 第2四半期以降の動向



## ・ セルフメディケーション事業

- 販売制度改正：大きな変化への対応、当然ながら店頭への影響はまだ続く
- リアップX5、ジクロテクト等の新製品：滑り出しは想定通り、引き続き育成を図る
- ドリンク剤：リポビタミンシリーズ全体で売上を構築

## ・ 医薬事業

- 抗菌薬市場でのさらなるシェア拡大へ
- 既存品の確保とジェニナック、ゾシンの育成を両立させる



# 販管費の推移：補足資料

- ・ 第1四半期は研究開発費を中心に、販管費が前年同期を大きく上回った
- ・ 主な販管費項目の第1四半期、第2四半期の比較は下表のとおり

(億円)

	1Q(4-6月)		2Q(7-9月)			2Q累計	
	実績	前年比 増減	修正 予想	前年比 増減	対1Q 増減	修正 予想	前年比 増減
研究開発費	92	+35	51	▲42	▲41	143	▲7
広告宣伝費	45	+10	43	+6	▲1	88	+16
販促費	58	+6	61	+4	+3	119	+10

- ・ 研究開発費：導入品目に関する支払い
- ・ 広告宣伝費：新製品
- ・ 販促費：新製品、販売制度改正への対応

# セルフメディケーション事業：新製品



第1四半期は第1類の新製品3品を発売

<2009年度の新製品>

赤文字: 発売済みの製品

<p>&lt;第1四半期&gt; ストパン、ジクロテクト リポビタンハーフ リアップX5 フラバン エイジ(通販) など</p>	<p>&lt;第3四半期&gt; ドリンク剤 リビタシリーズ など</p>
<p>&lt;第2四半期&gt; リポビタンシリーズ リビタシリーズ など</p>	<p>&lt;第4四半期&gt; 外用剤 など</p>

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



## 国内

(2009年7月31日現在)

	特長 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ3			
CT-081* (経口)	活性型ビタミンD <sub>3</sub> 誘導体 骨粗鬆症	中外製薬共同	中外製薬
フェーズ2/3			
CT-064** (注射)	ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
フェーズ2			
TT-063 (外用)	エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
NT-702 (経口)	気管支喘息	日産化学共同	日産化学

\*CT-081: 中外製薬における開発コードはED-71

\*\* CT-064: 中外製薬における開発コードはR484

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



国内(続き)

(2009年7月31日現在)

	特長 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2(続き)			
NT-702 (経口)	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
CT-064* (経口)	ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
TS-071 (経口)	SGLT阻害作用 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬
TS-022 (外用)	アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬
パルクス (注射)	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 <適応追加>	自社	大正製薬/ 田辺三菱製薬

\*CT-064: 中外製薬における開発コードはR484

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(3)



## 海外

(2009年7月31日現在)

	特長 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
TS-022 (外用)	アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬

# (ご参考) 純資産の部の増減要因



(百万円)

	前期末 (09年3月末)	1Q (09年6月末)	増減額	増減内容
I 株主資本	516,948	511,440	▲ 5,508	
資本金	29,804	29,804	-	
資本剰余金	14,935	14,935	-	
利益剰余金	535,393	494,265	▲ 41,127	四半期純利益+3,580、剰余金配当▲4,343 自己株式の消却▲40,365
自己株式	▲ 63,183	▲ 27,564	+35,619	自己株式の消却+40,365 自己株式の取得▲4,746(4月以降取得分)
II 評価・換算差額等	▲ 11,782	▲ 3,851	+7,931	
その他有価証券評価差額金	▲ 3,752	3,203	+6,955	投資有価証券評価益の増加
その他	▲ 8,030	▲ 7,055	+975	為替換算調整勘定の増加
III 少数株主持分	9,344	9,614	+269	大正富山+233, ビオフェルミン+25
純資産合計	514,511	517,203	+2,691	

- ・ 取締役会の決議による自己株式の取得 (4/1~14) 2,494千株 4,702百万円
- ・ 自己株式の消却 (6/26付) 20,000千株 40,365百万円